

フランス語の冠詞の用法を日本語母語話者に習得させる場合についての調査報告

Cécile MOREL

はじめに

私は、以前『人文論叢』に発表した「フランス語教育におけるテキスト言語学と相互的学習方法の応用—フランス語の冠詞の用法を日本語母語話者に習得させる場合—」（モレル，2005）において、フランス語の冠詞の用法を日本語母語話者に理解させるためにテキスト言語学と相互学習方法の利用が効果的であることを主張し、具体的な練習方法を提案したが、本稿は、そこで紹介した練習方法のより実践的な応用を目指し、その効果を確認することを目的としている。そのため、具体的にいくつかの練習問題を作成し、それを実際の日本語を母語とするフランス語学習者にやってもらうという調査を行い、その結果について報告する。

調査の概要

対象学生・調査期間・

2005年前期、京都女子大学の3回生、11人に1ヶ月の期間を与え、宿題として、前述の定冠詞、不定冠詞についての問題をやってもらうという調査を行った。

（練習問題の詳細は、後の節を参照）。

本稿の構成

本稿は、調査の結果を分析し、考察することを目的とするが、今回の調査で

は、モレル（2005）で紹介した練習方法を考察しなおし、前回作成した問題を改善し、また新たな練習問題も作成したので、まず最初に、前回の論文で提唱した練習方法とその問題点、改良点を紹介する。

その後、今回作成した新たな練習問題も含めて、実際に行った練習問題と、その実施結果を報告する。

最後に、調査対象となった学習者たちの感想文を紹介するとともに、練習問題の効果、問題点、改良点などについて考察する。

前回提唱した練習方法

外国語習得と母語習得についてリュックが述べているように、「テキスト言語学の視点からすると、“文”（phrase）というものによってテキストの描写が限定されないのは、コンテキストとテキストの中の文の相互依存関係のせいである。さらに、あるコンテキストの状況によって、単独の文をテキストとして扱うこともできるし、その単独の文に新たな文をくっつけるだけでテキストとして完成させることもできる。このような文と文の関係、その出現の効率のよい規性について考えたり、詳しく調べたりすることがテキスト言語学の目的である」（Rück, 199:113）

前述の定冠詞、不定冠詞についての問題をやらせようという調査の目的はテキスト言語学の視点から学習者には文と文の関係を理解させることである。定冠詞と不定冠詞は文と文の关系到大切な役割を持っていることに重点を置かなければならない。そのために学習者に文の中で定冠詞と不定冠詞の役割と必要性について理解させる必要がある。学習者が文と文の关系到について理解力を補うことができるようになるためにこの調査をすることにした。そのことから今のようない調査の必然性が分かるようになるだろう。

ここで前回紹介した練習方法を新たに紹介する必要がある。それは前回紹介した練習方法も使ったり、その練習方法と違う練習方法も使ったりしたからである。

まず、前回紹介した練習方法の一つは次のものである：「たとえば、日本語

フランス語の冠詞の用法を日本語母語話者に習得させる場合についての調査報告の新聞の三面記事とフランス語の三面記事を用意する。それぞれ記事内容が似たようなものを選ぶか、あるいは日本語の三面記事の仏訳を準備し、それぞれの記事をバラバラにしてから、学習者に記事を元の順番に戻すように指示する。」（モレル、2005：57）。

その練習方法の目的はテキストというものについて考える機会を与えることである。そして学習者がテキストに様々な進行があることに気付く機会を与えることである。テキストの中で定冠詞と不定冠詞の位置によってテキストの進行が変わる。テキストの進行が変わることを理解するために定冠詞と不定冠詞の重要な役割について考える必要がある。また定冠詞と不定冠詞の重要な役割を果たしていることに気付くことになるにちがいない。テキストが作られて行くというプロセスに参加させることになる。

学習者の理解度を高めるために次の練習方法を前回紹介した：

「より簡単な問題とは同じ三面記事を使って、今度は学習者に日本語の三面記事に出てくる助詞の「は」と「が」のついた名詞に線を引かせ、それらが対応する言葉をフランス語の三面記事から書き出すように指示する。さらにそれぞれの特徴を考え、フランス語と日本語に共通点はあるかないか探るように指示する。その後、新情報・旧情報の説明をし、前もって教師が作った旧情報・新情報の表にそれぞれの単語を入れさせる。そのような作業を通じて、学習者に、ある記事の中で旧情報の「は」と新情報の「が」、あるいは旧情報の定冠詞と新情報の不定冠詞に気付かせることができる。学習者はテキストの中で旧情報と新情報に出会うことによってテキストの結束性、複数の文の間で個別の情報がつながって行く様子をはっきりと体験することになるだろう。」（モレル、2005：57）。

この練習方法の目的は学習者に旧情報の「は」と新情報の「が」、あるいは旧情報の定冠詞と新情報の不定冠詞について考える機会を与えることであるのでこの調査の中でそのような専門用語（旧情報・新情報）を使って行く必要がある。学習者にはちょっと難しくても新たな体験できることになる。日本語と

フランス語についての新しい知識を得ることができる。新しい視点から母語とフランス語について考える機会を与えることになる。外国語の習得には母語の理解は欠かせないので旧情報の「は」と新情報の「が」の理解が必要である。

「母語の理解が不十分であると外国語習得のプロセスの中で障害にぶつかることはいうまでもない。」(モレル, 2005: 58)。

障害にぶつかることによって、自分自身の外国語習得のプロセスを理解することができ、より着実に習得が進むことにつながるだろう。

I

前回紹介した練習問題を使ったり、異なる練習問題を作ったり、やり方を変えたりしたことをここで説明して行く必要があると思われる。最初は、前回紹介した練習問題の一部を使ったが、それぞれの問題の難しさについて考え、もっと根本的な練習問題から始めるべきことに気がついた。テキストの中で定冠詞と不定冠詞は重要な役割を果たしていることを説明する必要があることに気付いた。また専門用語(旧情報・新情報)が使われていることによって学習者間の混乱が起こる恐れがあると考え直すことにした。専門用語の導入までは段階を置くことにした。先に言ったように専門用語の導入によって学習者は新しい知識を得ることができるがその知識を得るために定冠詞と不定冠詞についての知識を固める必要があると考えた。

まず最初に、一川周史の言葉を借りてみると:「もともと「あの」を意味するラテン語 (ille) を、厳密志向のフランス語が1000年程前から時間をかけて、名詞の《身元》を明らかにするのに不可欠な「定冠詞」に育ててきました。そしてもう400年近くフランス人は、今日と同じ様々な冠詞を無意識の、あるいは意識した厳密志向で使い続けているわけです。日本語には全く訳出しようがないケースが多いので、そのニュアンスは、文の意味の中に感じとっていかねばなりません。日本語に無理を強いれば、「その～」、「というの」、「そのもの」等と訳せる時もあります。冠詞に対応する品詞あるいは観念が日本語になく、しかもこの語は名詞と共に出ずっぱりなので、無視しては永久にフ

フランス語の冠詞の用法を日本語母語話者に習得させる場合についての調査報告
フランス語はものになりません。」(...)『新・冠詞抜きでフランス語はわからない』(一川周史, 2003: 12)

一川周史氏が言うように“名詞の〈身元〉を明らかにするのに不可欠の「定冠詞」に育ててきた”フランス語なので、学習者がその現実を理解するように練習問題を提出しなければならないと考えた。そのため、第一段階として、最初に定冠詞を中心的に扱った問題を選んだ。それらの問題は次のような問題である。

II

今回提唱した練習方法とその実施結果

道の案内は練習問題の元にする。道の案内の中で全ての定冠詞は記入されている。最初に、学習者に道の案内を読んでもらう。その後、その中で使われた名詞を定冠詞抜きで取り出して、定冠詞を入れてもらう。この問題の正解率は非常に高かった。99%だった。

冠定詞その(1): 次の文を読んでください。plan

Pour venir chez moi, tu prends la rue Descartes, puis le boulevard Carnot à gauche et tu continues jusqu'à la boulangerie. Là, tu verras la statue de Pasteur sur la petite place:

j'habite l'immeuble qui est juste derrière la statue. Tu entres, tu vas dans la cour, tu prends le couloir à droite et c'est la première porte à gauche. Et n'oublie pas les photos de ton voyage en Inde!

(Grammaire vivante du français, Clé International)

定冠詞を書いてください。

...rue Descartes

...immeuble

...boulevard Carnot

...cour

...boulangerie

...couloir

-...statue

-...première porte

-...petite place

-...photos

上記で紹介したものの目的は、学習者が定冠詞の使い方を思い出すためのものでもあり、次の練習問題のために反復練習問題になる。

今度は学習者が穴埋めの招待状と穴埋めの会話に定冠詞を入れる。これらの問題には全ての定冠詞 (le, la, l', les) を使うことになる。これらの練習問題の正解率も高かった。93%だった。しかし男性名詞・女性名詞・複数また母音の前で省略するものは明らかに習得されていなかった。

定冠詞を入れてください。

A) Itinéraire

Les Ménards, le 18.12.89

Cher Paul, chère Michèle,

Nous vous attendons pour...jour de...an dans notre maison de campagne. Voici...indications pour nous trouver.

Vous sortez de Salon, vous prenez...route de Pélissane. A Pélissane, vous traversez tout...village et juste après...pont, vous quitterez...route principale pour prendre...route de Lançon. Vous faites 3 kilomètres (...paysage est magnifique!) et vous verrez...panneau qui indique...Ménards.

...chemin n'est pas bon mais...maison est à 200 mètres de là à peine, dans...arbres.

B) Départ

Enfin...vacances!

フランス語の冠詞の用法を日本語母語話者に習得させる場合についての調査報告

-Tu pars? Tu vas où?

-A Avignon. Je pars avec...enfants. Je me dépêche, je dois aller chercher...billets à...agence avant midi!

-Vous prenez...avion?

-Non,...train. Avec...TGV, c'est rapide!

その次に、また穴埋めの問題である。今度はA) 特定主語のものを示す定冠詞が使われている文とB) 対象物について話し手と聞き手の両者に了解されているものを示す定冠詞が使われている文を分けて番号を記入することを指示してある。

この練習問題はとても難しく、指示も分かりにくいところから正解率はあまり高くなかった。64%だった。その点でこの練習問題全体の改善が必要であると思う。特定主語についてもっと説明すべきだった。特定主語について例文を出してから練習問題に入るべきだった。今回の例文では区別しにくいところがあるので正解率はあまり高くなかった。正解率はそれほど高くないが学習者は真面目に取り組んでくれたに違いない。

定冠詞についての練習問題は以上である。

定冠詞その(2)：定冠詞を入れて下さい！

1) ...examens sont au mois de juillet? Oui,...examens sont bientôt là.

2) ...film que tu as vu hier, il était comment?

...film que j'ai vu hier, il était passionnant. C'est...dernier film de Pedro Almodovar. J'aime beaucoup...films de Pedro Almodovar.

3) ...concert, c'est quand?...concert, c'est dans 3 jours.

4) ...musique que j'ai entendue l'autre jour chez toi, c'est...
musique d'un film?

Oui, c'est...musique du film de Sergio Leone.

Je ne connais pas ce film, tu peux me prêter...disque?

5) ...exposition, c'est pour bientôt?...exposition des oeuvres de
ma soeur aura lieu dans une semaine environ. C'est...première
exposition qu'elle fait au Japon.

6) ...cerisiers vont commencer à fleurir dans combien de temps?
...cerisiers? Dans une semaine environ.

7) Tu as vu...publicité pour...nouvelle voiture de Nissan? Non,
pas encore.

8) Elle est amusante...nouvelle publicité pour...voiture de Nissan,
regarde-la!

A) 特定のものを示す定冠詞が使われているのが何番ですか。

2. 4. 7. (正解)

B) 対象物について話し手と聞き手の両者に了解されているものを示す定
冠詞が使われているのが何番ですか。1. 3. 5. 6. 8 (正解)

そして第二段階として、今度は中心的に不定冠詞を扱った練習問題を選んだ。学習者に不定冠詞もまた無視してはいけない品詞であり、定冠詞との使い分けはとても難しく、定冠詞が持つ特徴、またその使い道は不定冠詞が持つ特徴、または使い道とは違うということに注目させる必要がある。そのために、次の練習問題にした。

最初の問題は、定冠詞に関する問題と似ている問題である。全ての不定冠詞が記入されている迷子になった人の話を読んでもらう。その後、定冠詞の練習問題と同じように不定冠詞を書き出す。この問題の正解率は非常に高かった。100%だった。

フランス語の冠詞の用法を日本語母語話者に習得させる場合についての調査報告
不定冠詞その(1)次の文を読んでください。

Je me suis perdu! Quand je suis sorti de Meaux, j'ai pris une route
à droite, j'ai traversé un village puis une forêt. Après, j'ai vu un
lac et heureusement, juste à côté, il y avait un terrain de camping;
ce sont des campeurs qui m'ont expliqué comment venir à Penchard,
sinon je ne vous trouvais pas!

... route ...village ... forêt ... lac ... terrain de camping
... campeurs

次に穴埋めの問題をいくつかを出し、それぞれの問題は内容が異なっている
が根本的に不定冠詞 (un, une, des) を入れる問題である。最初の練習問題は
短いテキスト、その次は引っ越しの会話、その後誕生日プレゼントを選ぶこ
と、最後に映画のシナリオである。この4つの練習問題に関しては正解率はと
ても高かった。Aは92%, Bは96%, Cは98%, Dは97%。

不定冠詞を入れてください。

A) Bon, maintenant tu es là...

Tu vois, il y a...bon feu dans la cheminée. Installe-toi, je vais te
préparer...café, puis nous irons faire...promenade dans les bois.
Avec un peu de chance, nous trouverons ...champignons pour faire
...omelette ce soir. Ici, nous menons...vie bien tranquille!

B) Mais parle-nous un peu de toi...

Tu as trouvé...appartement?

-Oui, hier soir: c'est...studio assez grand dans...quartier que j'aime
beaucoup, les Gobelins, tu connais? Maintenant, il me faut...meub-

les. Dès demain, j'irai acheter...canapé-lit,...table et...chaises

-Si tu veux...cuisinière à gaz et...frigo, on peut te prêter ça.

-Oui, volontiers. Et vous n'auriez pas...étagères de bibliothèque par hasard?

-Non, on n'a pas ça!

C) Une idée de cadeau

La semaine prochaine, c'est l'anniversaire de Mathilde. Qu'est-ce que je peux bien lui offrir?

...pull? ...chaussures de ski? ...stylo? ...montre fantaisiste?

...lunettes de soleil? ...livre d'art? ...écharpe? ...cassettes?

D) Scénario de film

C'est l'histoire d'...écrivain qui, au cours d'...week-end chez... amis, raconte...jeune danseuse;...grande passion va naître. Puis, ...jour, elle part en tournée à l'étranger et disparaît.

最後に穴埋めの問題である。今度はA) 特定のものを示す不定冠詞が使われている文とB) 対象物について話し手と聞き手の両者に了解されているものを示す不定冠詞が使われている文を分けて番号を記入することを指示してある。この問題に関しては正解率は低かった。37%だった。この問題は思ったより学習者にとってとても難しかった。その点でこの練習問題は全体的な改善が必要であると思う。その練習問題に関してもっと説明が必要であろうと思う。また使われているフランス語が学習者には分かりにくいということも考えられる。

不定冠詞に関する練習問題はこれ以上である。

不定冠詞はその(2)

フランス語の冠詞の用法を日本語母語話者に習得させる場合についての調査報告

- 1) J'ai vu...très joli sac dans...magasin près de l'Université.
- 2) C'est...sac comment? C'est...sac bleu avec des rayures blanches.
- 3) C'était...jour pluvieux, je suis sortie faire les courses. J'ai rencontré...petit garçon près de la boulangerie. Le petit garçon m'a dit: J'ai perdu...jeu. Alors nous avons cherché le jeu. Nous avons retrouvé le jeu. Le petit garçon était content.
- 4) C'est...dictionnaire de français?
- 5) Non, ce n'est pas...dictionnaire de français. C'est...dictionnaire français-japonais.
- 6) C'est l'histoire d'...femme qui part en voyage. Au cours de son voyage, elle va rencontrer...gens du monde entier.
- 7) Maintenant, elle va nous raconter...histoire de fantômes.
- 8) Autrefois, il y avait...village ici, mais il a disparu dans...incendie.

A) 同類のものの任意の一つまたは複数を示す不定冠詞が使われているのが何番ですか。2. 4. 5. (正解)

B) 対象物について話し手と聞き手の両者間に了解がないものを示す不定冠詞が何番ですか。1. 3. 6. 7. 8. (正解)

それで第三段階は、『「は」/「が」, 定冠詞/不定冠詞の対応について考えてもらうことにした。一般に, 旧情報とは, 話し手と聞き手が共有していると想定されている情報で, 新情報とは聞き手がまだ知らないと話し手が想定している情報である。「は」は旧情報にかかわり, 「が」は新情報にかかわることがしばしばあります。不特定主語「が」は新情報であり, 特定主語「は」旧情報であると考えられる。フランス語では定冠詞が特定主語になり, 不定冠詞が不特定主語になる。』

次の説明を加えてから, 日本の昔話『きき耳ずきん』の一部を読んでもらっ

た。指示は次のようになる：「この話をよく読んでから線が引いてあるところに定冠詞または不定冠詞を入れてみてください。それぞれの冠詞に対して日本語の何かが使われているのを書いてみてください。」

線が引いてあるところは6ヶ所である。一人のおじいさんが、おじいさんは、子ぎつねが、こぎつねは、おじいさんは。

その次に逆の練習問題をやらしてもらった。指示は次のようになる。『今度はフランスの話をよく読んで線が引いてあるところを日本語に訳してみてください。Princesse Eglantine, Chapitre 3, Les deux brigands (Mes premiers J'aime lire, Bayard jeunesse)。』

この練習問題のためにも線が引いてあるところは6ヶ所である。

Un brigand, un deuxième brigand, le premier brigand, le premier brigand, l'autre brigand, une récompense.

これらの練習問題は学習者にとっては特に難しく感じることはなかったと思われる。正解率は非常に高かった。『きき耳ずきん』も Les deux brigands もどっちも92%だった。

これらの問題は「はじめに」の中の紹介した三面記事の練習問題を簡単にした練習問題である。三面記事より簡単な練習問題から始めると学習者の理解が深まることが想定できる。さらに、旧情報と新情報の説明、「は」は旧情報にかかわり、「が」は新情報にかかわることがしばしばあり、不特定主語「が」は新情報であり、特定主語「は」旧情報であると考えられるという説明は欠かせないし、その上フランス語では定冠詞が特定主語になり不特定冠詞が不特定主語になるという説明も欠かせないと思われる。言わば、学習者が今まで習ったこととちょっと違う面から定冠詞／不定冠詞の働きについて考えることにな

フランス語の冠詞の用法を日本語母語話者に習得させる場合についての調査報告
る。

これらの問題を通して学習者にとってフランス語と母語について考えるまた比較する機会になると考えた。言葉の習得には失敗も実験も大事であるというまでもない。言葉の習得は永遠の実験という感覚を覚えさせる必要があると考えた。

以上の練習問題をさらに理解させるために、先に紹介した「たとえば、日本語の新聞の三面記事とフランス語の三面記事を用意する。それぞれ記事内容が似たようなものを選ぶか、あるいは日本語の三面記事の仏訳を準備し、それぞれの記事をバラバラにしてから、学習者に記事を元の順番に戻すように指示する。」（モレル、2005：57）という練習問題を出した。

次のように指示した：「フランス語の記事と日本語の記事を元に戻してください。その後、線のところとイタリックのところそれぞれ分けて下の表に入れてみてください。」

日本語で書かれていた三面記事の場合は、11人の内8人は問題を解けることができ、この問題に関しては正解率はあまり高くなかった。65%だった。フランス語の訳に関しては正解率はそれほど高くなかった。55%だった。11人の内は6人は問題を解けることができ、後の5人は全くできなかった。フランス語訳の場合は、定冠詞、不定冠詞の問題よりフランス語そのものが問題になったと思われる。それぞれの練習問題のつながりの意味が理解されなかった可能性があると思われるが、それにしても正解率は高かったとも言える。

その三面記事は朝日新聞2005年1月31日のものである。

「毒殺？ウサギ15匹死ぬ」

「31日午前8時ごろ、大阪府豊中市（...），市立西丘小学校のウサギ小屋で、飼育しているウサギ15匹と、ニワトリ1羽が死んでいるのを出勤した用務員が見つけ、豊中署に通報した。

ウサギ数匹は刃物で刺され、ニワトリは首を切断された状態で、首から上

は見つかっていない。同署は動物愛護法違反と建造物侵入容疑で調べている。

同署によると、小屋に出血の跡が少なく、同署は毒物を飲ませるなどして殺した後、傷つけた可能性があるともっている。教諭が帰宅した28日午後7時から31日朝までの間の犯行らしい。」

フランス語の訳：

“Empoisonnement? Mort de quinze lapins dans une école primaire à Toyonaka.”

“Aux environs de 8 heures du matin le 31 janvier dans la cage à lapins d’une école primaire à Toyonaka dans la préfecture d’Osaka, un employé a trouvé à son arrivée une poule et quinze lapins morts puis a téléphoné à la police.

Les lapins ont été tués d’un coup de couteau et la poule a été décapité mais sa tête n’a pas été retrouvée.

La police enquête pour violation de bâtiment et violation de la loi sur la protection des animaux. D’après la police, les traces de sang étant peu nombreuses dans la cage à lapins, il est possible que les animaux aient été tués après empoisonnement.

Le délit a dû se produire entre le 28 janvier 19 heures et le 31 janvier au matin après le départ des professeurs.”

問題は次である：

「フランス語と日本語の記事をそれぞれ比較しながら、新情報、旧情報、特定になっている部分を書き出して、日本語とフランス語の共通点について考えてみて下さい。できるだけ詳しく書いてください。」これらの問題に関しては正解率は高かった。89%と82%だった。

次の問題が最後に出された問題であり、先に紹介したように：「学習者はテ

フランス語の冠詞の用法を日本語母語話者に習得させる場合についての調査報告キストの中で旧情報と新情報に出会うことによってテキストの結束性、複数の文の間で個別の情報がつながって行く様子をはっきりと体験することになるだろう。」（モレル、2005：57）。

それぞれの練習問題の正解率をみると学習者は全体的によくできたと思われる。

答えは次のようになる：

不定冠詞：un employé, une poule, quinze lapins, des professeurs.

定冠詞：Les lapins, la poule...la police (3 fois)

～が～：ウサギ15匹，ニワトリ 1 羽が，用務員が，教諭が

～は～：ウサギは，ニワトリは 特定：同署は（3 回）

1) フランス語

a) 新情報

un employé, une poule, quinze lapins, des professeurs.

b) 旧情報

Les lapins, la poule...

c) 特定

la police (3 fois)

2) 日本語

a) 新情報

ウサギ15匹，ニワトリ 1 羽，用務員が，教諭が

b) 旧情報

ウサギは，ニワトリは

c) 特定

同署は（3 回）

Ⅲ

これから学習者を書いてもらった感想文を紹介して行きたいと思う。調査に参加した11人のうち7人は、「日本語とフランス語の共通点について」または「感想文」の2点のうちいずれか1点または両方に答えを書いてくれた。その内容は以下のようなものであった。ここでは考察を加えて行きたいと思う。

学習者1) 日本語とフランス語の共通点について：「une など冠詞はフランス語では初めにくる，日本語は「～が」のように後にくっつく。「初め」と「後」とつく位置は違うけど，形としては同じだし，言葉のリズム感は似ていると思う。」

感想：「私自身，日本語の理解力がないので少し難しかったです。日本人なのにまだまだ自分が話している言葉をきちんと理解できていないなあ...と思いました。」

(...) 夏休みは，フランス語も日本語もその他のこともいろんなことに興味を持って勉強したいと思います。」

学習者2) 日本語とフランス語の共通点について：「un, une, des = ～が定冠詞は日本語では～がとなる。le, la, les = ～は不定冠詞は日本語では～はにあたる。」

感想：「今まで日本語とフランス語の共通点は考えたことがなかったので勉強になりました。今回のプリントは難しかったです。特にフランス語の文をもとにもどす問題はあまり分かりませんでした。それから特定はどの程度までが特定とされるのか文で見分けるのは難しかったです。これからもっとフランス語を理解できるように頑張ろうと思いました。」

学習者3) 日本語とフランス語の共通点について：「始めて文章に出てきた言葉はフランス語＝“un”，日本語＝“～が”と，それぞれ使われる。逆に，一

フランス語の冠詞の用法を日本語母語話者に習得させる場合についての調査報告度文に出た言葉にはフランス語＝“le”，日本語＝“～は”と，それぞれ使われる。この点はフランス語も日本語も共通した部分があると思う。」

感想：「文章の順番を元に戻す問題が一番時間がかかりました。文章は簡単な内容なのに，なかなか難しかったです。問題を解いてみて，日本語でもフランス語でも，それぞれ訳してみると，不定冠詞や定冠詞が使われているところは同じ意味を持つんだなあ（例えば un だったら「～が」と訳す）ということが分かりました。うまく言葉では説明できないのですが…。これまで，こんなに冠詞について深く考えたことがなかったのですがフランス語には男性名詞と女性名詞があるので，そこがやっぱりややこしいです。」

学習者4）日本語とフランス語の共通点について：「旧情報，新情報を主語に付く語（日本語は助詞，仏語は冠詞によりある程度見分けることができる点。前述の語（旧情報）を再度使用する際に別の語に置きかえるところ。しかし，日本語はすぐ前に出てきたものについて省略している事が多い。」

感想：「今まで，不特定主語，特定主語や新情報，旧情報というようなポイントから日本語，フランス語とも見たことがなかったのでビックリしました。これを知っていると仏語の長文を読む時に何かの役に立ちそうですね！」

学習者5）日本語とフランス語の共通点について：le, la, les＝は，un, une, des＝がに当たる。」

感想：「以前から代名動詞のある文の語順と日本語の語順は似ているなと思っていましたが，定冠詞，不定冠詞という少し細かいところにも共通点があるようで，言葉とは奥が深いなと思いました。毛糸不明の日本語ですが，どこか遠い遠いところでフランス語とつながっているところがあるのかなあ…歴史ロマンですね。」

学習者6）日本語とフランス語の共通点について：「日本語で「～が」となっている時はフランス語では不定冠詞，「～は」となっているときは定冠詞で

表されている事がわかった。」

感想：（なし）

学習者7）日本語とフランス語の共通点について：（なし）

感想：「今回やった定冠詞，不定冠詞が私は今までよく分からなかったので勉強する機会ができて良かったです。でも定冠詞と前置詞が並ぶ場合，短縮するものがあるけれどそれがまたパッと分からないのです。仏検も前置詞や冠詞を入れる問題が苦手な苦戦しました。またこの単語は女性，男性名詞のどちらかというのが知らないものもあるし，文中で判断できる時とできない時があるので気をつけて文を見ないといけないなあと思いました。」

全ての感想文をみて見ると学習者が調査に真面目に取り組んでくれたことがよく分かる。そして，学習者が書いてくれた感想文からも学習者が外国語得得に力を入れているのはよく分かる。しかし，学習者は直面した問題が似ているところから練習問題の難しさと改善すべき点について改めて考えることになる。つまり，授業中に学習者がフランス語の冠詞の用法に関してどれだけ理解されていることは調べて置く必要があった。学習者に冠詞の練習問題を通じてテキストそのものについて考えさせる機会を与える必要があった。その上で，テキストの中で冠詞の働きについての練習問題をさせて置く必要があった。

この調査の中で提供した練習問題よりもっと多く練習問題を提供すべきだった。さらに，この調査の目的を詳しく説明を行うことも必要だったと思われる。

結 論

この調査は，対象となる学習者の人数が少ないことから良い点と悪い点があったと思われる。人数が少ないが学習者から様々な情報が得られたことは良い点である。その情報によって調査する意義があったとも言える。

悪い点とはいえば，人数が少ないことから一般的に調査の正確さが下がると思われるがこの場合は十分正確だったと思う。つまり，学習者の11人はほとん

フランス語の冠詞の用法を日本語母語話者に習得させる場合についての調査報告
ど全ての練習問題に答えを出していること、半分以上の学習者が「日本語とフランス語の共通点について」また「感想文」を書いてくれたことから正確さが見られると思う。本来ならばこの調査は授業中に行う予定だったがその時間が取れず、宿題という形にしたことは調査の形はかわるだろうが調査としてはなり立つと思う。

参考文献

- Jean-Michel Adam, *Eléments de linguistique textuelle*, Mardaga, 1990.
Jean-Michel Adam, *Linguistique textuelle*, Nathan Université, 1999.
Francine Cicurel, *Lectures interactives*, Hachette, 1991.
Catherine Fuchs, *Les ambiguïtés du français*, Ophrys, 1996.
Catherine Kerbrat-Orecchioni, *Les interactions verbales t. 1*, Armand Colin, 1998.
Catherine Kerbrat-Orecchioni, *L'implicite*, Armand Colin, 1991.
Catherine Kerbrat-Orecchioni, *Les interactions verbales t. 3*, Armand Colin, 1998.
M. A. K. Halliday & Ruqaiya Cohesion in English, Hasan, Longman, 1976.
Jean-Emmanuel Le Bray, *Linguistique textuelle*, CNED, 1998.
Philippe Meirieu, *Apprendre...oui, mais comment*, ESF, 1987.
Sophie Moirand, *Une grammaire des textes et des textes et des dialogues*, Hachette, 1990.
Christian Puren, *Se former en didactique des langues*, Ellipses, 1998.
Heribert Rück, *Linguistique textuelle et enseignement du français*, Hatier, 1991.
Claude Vargas, *Grammaire pour enseigner*, Armand Colin, 1999.
Harald Weinrich, *Le temps*, Seuil, 1973.

- 井口厚夫, 井口裕子『日本語文法整理読本』バベル・プレス 2004
日向茂男, 日比谷潤子『談話の構造』荒竹出版 1994
日本語教育指導参考書11『談話の研究と教育 1』国立国語研究所 1995
日本語教育指導参考書15『談話の研究と教育 2』国立国語研究所 1989
久野暲, 高見健一『謎解きの英文法 冠詞と名詞』くろしお出版 2005
久野暲, 高見健一『謎解きの英文法 文の意味』くろしお出版 2005